

令和3年度 第3回 運行管理高度化検討会 議事概要

【日時】令和3年12月22日（水）16:00～18:00

【出席委員】寺田座長、伊藤委員、今井委員、小野委員、酒井委員、佐竹委員、篠宮委員、松谷委員、向委員

議事次第に沿って、事務局から資料を説明後、意見交換が行われた。

委員から出された主な意見は以下の通り。

意見交換後、資料2と資料3の内容が合意された。

[遠隔点呼の制度化に向けた最終とりまとめについて]

- 遠隔点呼を異なる支局の管轄区域を跨いで行う場合は、それぞれの支局がしっかり状況把握できるよう申請等の仕組みを考えてほしい。
- 遠隔点呼に使用する機器・システムが満たすべき要件の4. ④について、「内部『形式』のまま」ではなく「内部『構造』のまま」という文言が適切。
- 運行中の動態管理について、将来的な検討テーマとしてほしい。
- 遠隔点呼の制度化後、実運用の状況についてフォローアップを実施し、実態を踏まえた上で制度を磨き続けることが必要。中小事業者含めた業界全体の点呼の質が向上することを期待している。
- 遠隔点呼の機器導入にはコストが発生するため、事業者負担を軽減するスキームを今後検討してほしい。
- 遠隔点呼の記録情報について、事業者の本社に一元的に集約する方法を検討することも一案ではないか。
- 運転免許証の確認について、定期的に対面で直接確認し、不正を防止することも必要ではないか。

[乗務後自動点呼の要件とりまとめについて]

- 条件付き点呼自動化の定義について、必ずしも点呼実施場所に運行管理者の存在を義務付けるものとはしないように検討してほしい。
- 自動点呼導入による効果について、基本的な考え方で触れてはどうか。
- 年度末の条件付き乗務後点呼自動化の取りまとめに際し、引き続き乗務後点呼の完全自動化や乗務前点呼の自動化を目指すべく、今後のロードマップを示すことを考えてほしい。
- 自動点呼について、将来的には機器に学習機能の搭載が必要になってくると思料。

[運行指示者の一元化の実証実験状況について]

- 運行指示者の一元化の評価について、決められた評価方法を運用するだけでなく、実証実験参加事業者から自由意見を聴取する方法もとるべきではないか。

以上